

TOPICS  
4トピックス…④  
地域交流牧場全国連絡会 ク  
ラブ・ユース事業

「若手の集い第6弾！らくのうサミット in 北海道」を開催

地域交流牧場全国連絡会（以下「交牧連」、事務局：（一社）中央酪農会議）は、平成29年6月7日（水）から8日（木）にかけ、北海道十勝管内芽室町（2日目は鹿追町）で、「若手の集い第6弾！らくのうサミット in 北海道」を開催した。

地域交流牧場全国連絡会（交牧連）は、後継者世代の育成を図る事を目的として、平成26年にクラブ・ユース事業を立ち上げ、これまでに勉強会・交流会を5回開催している。第6回目となる今回の勉強会は、若手酪農家や酪農関係者、酪農に興味を持つ大学生ら約90名が参加し、様々なプログラムを通じて、交流を深めた。



参加者のみなさん

1日目は、交牧連会長・渡辺隆幸氏（(有)渡辺体験牧場・北海道川上郡弟子屈町）の開会挨拶からスタート。「将来はここにいる皆さんが日本の酪農界をリードする存在となって下さい。そのためにも、今日は若手の酪農家同士、酪農業界を目指している学生等、多くの人達と大いに語りあって下さい。」と激励した。

続いて、石田陽一氏（クラブ・ユース事業リーダー／(有)石田牧場・神奈川県伊勢原市）が挨拶を行なった後、藤田磨美氏（カンントリーファーマーズ藤田牧場・北海道河東郡鹿追町）によるアイスブレイクが行なわれ、会場の空気が一気に和やかになった。その後、ホクレンの担当者による「北海道の酪農について」の講義が行なわれ、さらに交牧連の「先輩酪農家の話」として、渡辺会長が代読する形で、廣瀬文彦氏（交牧連2代目会長／リパティヒル広瀬牧場・北海道帯広市）からの「約18年前の交牧連結成当時の思いと、後継者・学生に対する期待」についての熱いメッセージが紹介された。

らくのうサミットのメインであるディスカッションの1回目は、事前に参加者から聞いた様々なテーマに関して、「ワールドカフェ方式（メンバーの組み合わせを変えながら、4～5人単位の小グループで話し合いを続けることにより、あたかも参加者全員が話し合っているような効果が得られ、カフェのようなリラックスした雰囲気の中で話し合うことで、意見を出しやすくする手法）」で行なわれた。



ワールドカフェ方式のディスカッション

夕食をはさみ、中央酪農会議の担当者による「日本の酪農情勢について」の講義が行なわれた後、「後継者、世代交代」、「酪農の未来・制度」、「牛の病気、怪我、飼養管理」、「人材雇用」、「酪農教育ファーム」など酪農経営や飼養管理等をテーマに、2回目のディスカッションが行なわれた。その後、参加者同士の自由な意見交換や連絡先の交換などを目的に「フリータイム」の場が設けられ、北海道の会員等から提供された自慢のチーズやヨーグルト等に舌鼓を打ちながら、熱のこもった情報交換が行なわれた。

2日目は、カンントリーファーマーズ藤田牧場に場所を移し、藤田均氏（藤田牧場・代表）からの挨拶でスタート。その後、牧場スタッフの案内の下、牧場視察が行なわれた。

最後のプログラム・3回目のディスカッションは、1日目に話された内容を基にテーマを設定・班分けを行ない実施。班の代表者による発表では、「新規就農における情報の重要性」、「6次産業化における付加価値の内容や販路確保の重要性」、「地域住民の理解のための酪農教育ファーム活動の重要性」、「牛の疾病の予防における飼養環境の重要性」などの意見が出された。6回目となった若手の集まりの会は、まだ、まだ、話し足りないという空気が漂う中、大盛況のうちに幕を閉じた。



グループディスカッション